

初の1勝へ手応え

大舞台に4大会ぶりに戻ってきた――。県内唯一の社会人野球チーム「マツゲン箕島硬式野球部」は9月の全日本クラブ選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）に優勝し、今月29日に大阪市の京セラドーム大阪で開催する第49回社会人野球日本選手権大会（同）に駒を進めた。7度目の出場で、本大会初の1勝を目指すチームを2回に分けて紹介する。

【加藤敦久】

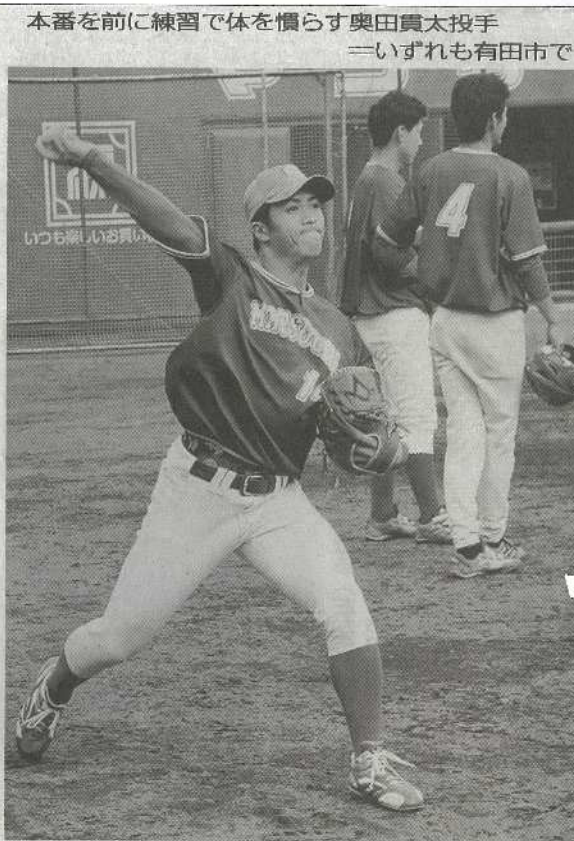
マツゲン箕島 チーム紹介上

社会人野球 日本選手権

27歳が最年長の若いチームが躍動したクラブ選

手権制覇だった。初戦は じき返して先制。チーム優勝候補の千曲川硬式野球クラブ（長野）。初回 竹中は専修大ではレギュラーから外れていたが、正式入社前の昨春、

に好投手の速球を4番・ユラーから外れていたが、正式入社前の昨春、



本番を前に練習で体を慣らす奥田貴太投手
――いずれも有田市で

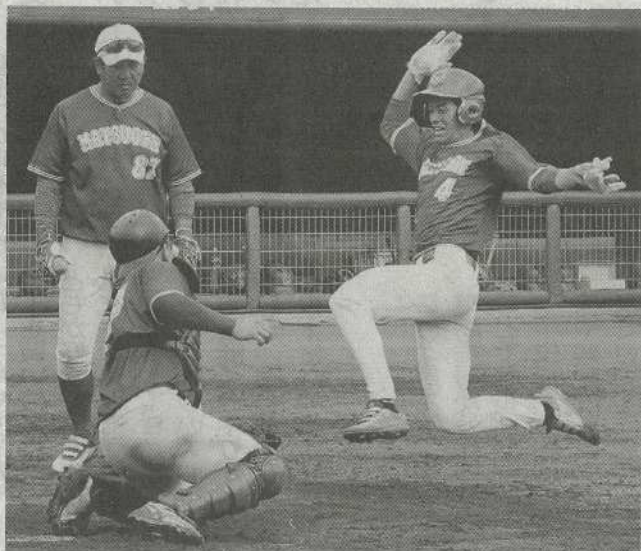
新人エース／勝負強さ光る4番

その成果が出た形で、世代から逸材とされている合は7-1で快勝した。だが、「社会人で打者としての駆け引きを学んだ」という。「将来はプロ」と心に決めており、日本選手権の初戦が強豪のNTT東日本であることは望むところだ。大学時代に東京ドームで先発経験があり、「京セラドーム大阪の登板もイメージしやす」と頼もしい。

参加したオープン戦で長打力を見込まれ、入社後に打力が落ちて4番に抜てきされ続けた。西川忠宏監督（63）は「それが信頼関係。彼は黙々と練習し、強い思いを持っている」。竹中も期待に応え、懐の深い構えで苦戦の内角球に対応し、筋力増強で飛距離を伸ばしてきた。先制の一打はMVPに輝いた。大学時代から逸材とされている合は7-1で快勝した。だが、「社会人で打者としての駆け引きを学んだ」という。「将来はプロ」と心に決めており、日本選手権の初戦が強豪のNTT東日本であることは望むところだ。大学時代に東京ドームで先発経験があり、「京セラドーム大阪の登板もイメージしやす」と頼もしい。

捕手の藤田幸永主将は「準決勝の大和高田戦に懸けていた」という。入社以来4年間、要所で阻まれ続けたライバル。巧みなりードで6-0と押さえ込み、決勝も快勝した。決意していた大会後の引退は先延ばしとなり、弟で二塁手の藤田希和選手（23）とプレーする時間が延びた。日本選手権では「最後の大会を楽しみたい」と話す。

西川監督は「奥田の加入で投の柱ができた。藤田がリード面などで成長し、竹中は勝負強くなった」と手応えを感じている。初の1勝をもぎとる戦力はそろっている。



大会を前に実戦を想定した練習をするマツゲン箕島硬式野球部の選手たち